

基幹病院に匹敵する循環器専門 クリニックを目指して

医療法人 松山ハートセンター
よつば循環器科クリニック

院長・理事長 阿部 充伯 先生

当院開設のきっかけ

愛媛県は心疾患による死亡率がWorst3位以内の循環器疾患の後進県です。

基幹病院でカテーテル手術と核医学診療に励んでいた私は、何とか愛媛県の心疾患死亡率を改善させようと、志を同じくするスタッフ達を集め、「患者ファースト」を信念とし、強い意志と使命感を持って、愛媛県松山市に2006年1月5日開院し、今年で16周年となりました。



医療法人 松山ハートセンター よつば循環器科クリニック

当院の特徴

当院は、循環器内科医3名、心臓血管外科医2名、麻酔科医1名と放射線科医1名の総勢7名が常勤しています。

当院の特徴はまず迅速で正確な心疾患の診断治療と、心臓血管外科医との相互協力による全国レベルの高度な治療技術の提供です。

あわせて生活習慣病を管理する「かかりつけ医」としての役割も担っております。

これらを実践していくために基幹病院に勤務する優秀な医療技術を持つ医師を招集し、スタッ

フの技術力向上のための教育を続けてきました。

また、最新鋭の医療機器を導入して、「心臓病の診断から治療までを当院で完結できる」システムを構築してきました。

心臓血管外科との密接な連携

私が勤務医の頃は、循環器内科医にとって心臓血管外科は敷居が高く、チーム医療というには程遠く、循環器疾患診療に必須である機動性に乏しい印象でした。

そこで、当院では、循環器内科と心臓血管外科のエキスパートが密接に連携して、当院を訪ねてくれた患者の診断および治療は当院で全うすることをモットーに、Co-medicalとのチームプレーで迅速に、ハイブリッド治療にも対応しています。

ちなみに、PCIは年間400症例、ペースメーカー新規植え込み術は年間40例であり、心臓血管外科の開心術（bypass、弁置換術）は年間40~50症例、下肢静脈瘤その他下肢bypass手術は年間80症例を、TEAVERおよびEAEVER手術も2020年4月から開始し、以後月1~2症例を施行しています。

Co-medicalとのチームプレー

「患者ファースト」を掲げる「チームよつば」では、医師をはじめとして総勢100人以上のスタッフが力を合わせ、それぞれが自分の専門領域に集中しています。

調剤まで院内で行う充実の体制で、病気を診るだけでなく患者の生活背景までしっかり診ることで、患者個別のテーラーメイドの治療方法を素早く見極めることができます。

医院名の「よつば」は、患者・医師・医療従事者・社会環境を意味しており、この4者が協力し、心を尽してより良い治療を行うことで、すべての患者に明るく健やかな生活を送って頂くことを目標にしています。

最新鋭の医療機器と連携システム

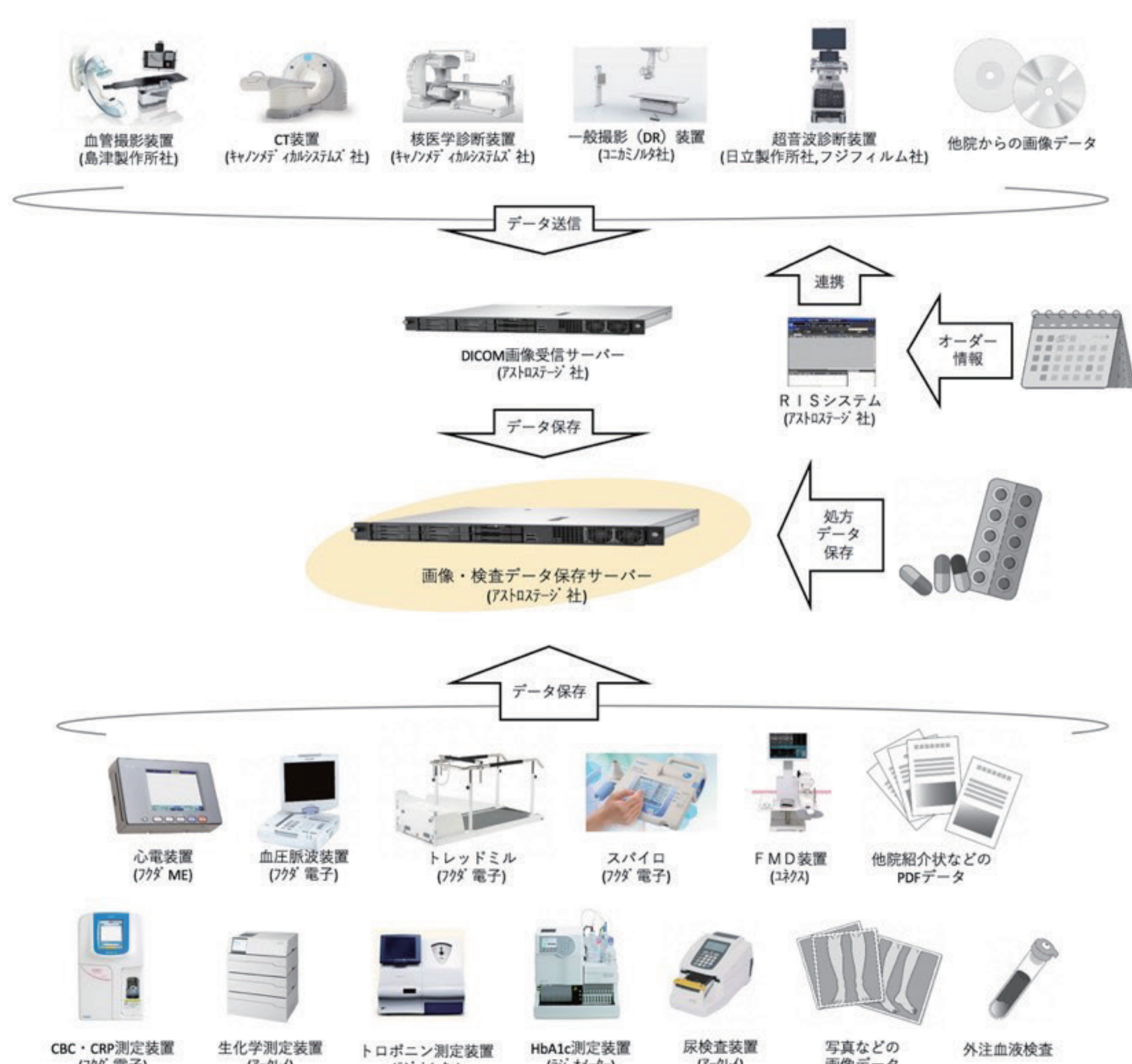
虚血性心疾患の確定診断のため、300列MSCTを早期より導入し年間2000症例を施行しています。

また、私が核医学専門医ですので、当院では日本のクリニックで初めてRI装置を導入し、PCI適応診断のため年間600症例以上の心筋シンチも施行しています。

当院では開院当初より、画像および検査データのネットワークシステムを構築しており、血管撮影装置・CT装置・核医学診断装置・一般撮影（DR）装置・超音波診断装置から送られたDICOM画像を保存し、心電図・血圧脈波検査などの生理検査データ、さらに検体検査データなどをサーバーに登録して、院内のあらゆる場所の約80台のクライアントパソコンでの参照を可能としました。

患者画面ではデータが種類毎にカテゴライズされ時系列で表示されるため、長年来院されている患者さんの過去データとの比較も難なく行うことができます。

今後、24時間365日使えるシステム、ひいては、南海トラフ地震に備えて、サーバーに保存されたデータをクラウド上にバックアップできるような仕組みを構築していきたいと考えています。



DICOM画像および各種検査データの保存ネットワーク

最後に

人は年齢と共に老化や動脈硬化が進行し病気になる可能性が高くなります。

一方で日本の高齢化が進んでいき、生涯で社会と関わる時間はますます増えてまいります。

このような状況の中、病気を早期に発見して治療を行い、元気で豊かな生活をできるだけ長く送っていただくこと、すなわち健康寿命を延ばすことがこれからの医療機関の務めだと考えております。

よつば循環器科クリニックは地域に根ざした循環器専門の医療機関として、職員が一丸となって医療技術の向上に励み、患者さんおよび地域に安心できる医療を提供し続けます。